

「恵南豪雨災害」

恵那市在住 Aさん 83歳 男性

生涯を通じて、忘れることが出来ない。平成12年9月11日夜半から、12日未明にかけて、上矢作町一帯を襲った集中豪雨でした。11日午後11時頃伝統は消え、電話は通話不能となり、携帯電話は圏外で通話が出来ず、私たち夫婦は寝間着姿から普段着姿に着替えて、大雨の降る音を聞きながら、寝室で座って居りました。12日午前4時頃、まだ大雨が降り続けているので、家内が先祖の仏様をお参りしようと思って、仏壇の在る座敷と居間の間の障子を開けようとしたら開からない。「お父さん障子が開かない」と言ったので、私は家が傾いたと直感して「逃げよ」と声大声を出して表へ飛び出しました。大雨の降る中、表へ出ると、ギチギチという異常な音がしていました。二人が顔を見合わせたその瞬間、私の目の前で家屋が矢作川本流へ落ちてゆきました。私は呆然として、家内は泣きくずれて、その時の心境は表現出来ません。

正気になって見ると、私たちは生きておりました。家内を連れて安全な処へ逃げて行きました。家の在った処へ戻って見ると、宅地、家屋、家財一切は流失して仕舞い、道路沿いに植えてあった可憐なサルビアの花が美しく咲いていたのが涙を誘いました。

10月1日仮設住宅に入居しました。県知事さんをはじめ、多くの皆様が仮設住宅を訪問してくださって、私達を励まして下さいました。大野副知事さん、県警本部長さんが仮設住宅に来られた時、私が、災害当時の様子を御話申上げると、障子が開かないと奥様が言われた時、表へ飛び出したのは凄い勤が良かったと褒めて下さいました。家内の側へ行き障子を引っ張って開けようとしていたら、恐らく私達夫婦は家屋と共に流失したと思います。

災害後は立派な住宅に入居出来て、何の不自由もなく文化生活が出来るのは、多くの皆様方の御支援と、御指導下さった賜と深く感謝して居ります。私は岐阜県に生まれて良かったと今でも思っています。